

新生・ワールドラップ・セレクト

追加型投信／内外／資産複合

交付運用報告書

第6期(決算日：2022年8月15日)

作成対象期間(2021年8月14日～2022年8月15日)

第6期末(2022年8月15日)

| | |
|------------|----------|
| 基準価額 | 9,184円 |
| 純資産総額 | 1,550百万円 |
| 第6期 | |
| 騰落率 | △9.0% |
| 分配金(課税前)合計 | 0円 |

(注) 騰落率は分配金(課税前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は四捨五入して表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、新生インベストメント・マネジメントのホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

弊社ホームページの「基準価額一覧」からファンド名称を選択し、「ファンドの特色」ページにおいて運用報告書(全体版)を閲覧およびダウンロードすることができます。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、ご購入いただいております「新生・ワールドラップ・セレクト」は、去る2022年8月15日に第6期の決算を行いました。

当ファンドは、主に投資信託証券に投資を行うことを通じて、インカム収益の確保を重視し、中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行ってまいりました。

ここに謹んで第6期の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引立て賜りますようお願い申し上げます。



東京都中央区日本橋室町2-4-3

ホームページアドレス <http://www.shinsei-investment.com/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

投資信託部

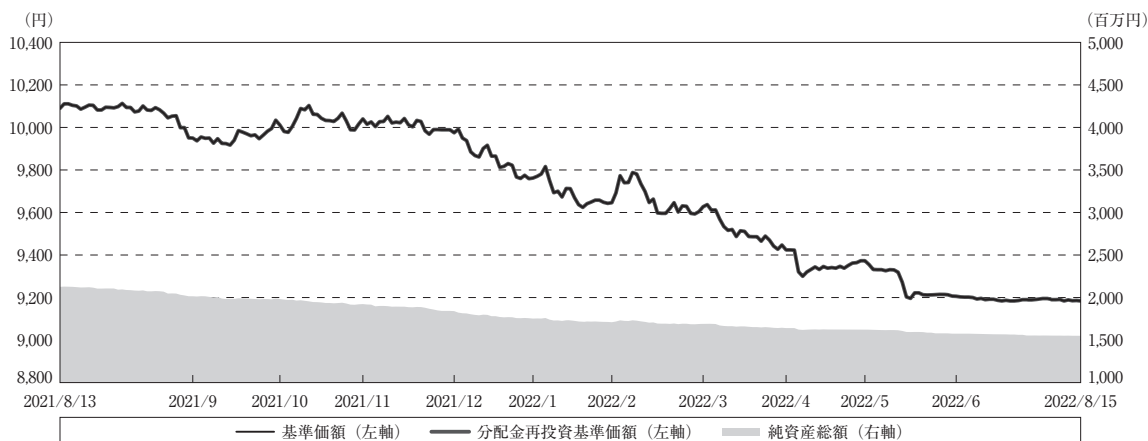
電話番号 03-6880-6448

受付時間 営業日の9:00～17:00

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2021年8月14日～2022年8月15日)



期首：10,090円

期末：9,184円 (既払分配金(課税前)：0円)

騰落率：△ 9.0% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(課税前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、期首(2021年8月13日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。なお、上記表示期間に収益分配が行われなかった場合、基準価額と分配金再投資基準価額の推移は同一のものととなります。
- (注) 当ファンドは、特定のベンチマーク(運用成果の目標基準)や参考指数を設けておりません。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

当期における基準価額の主な変動要因は、以下の通りとなります。

当ファンドの基準価額に対するプラス要因

- ・当期首から2021年末にかけて、堅調な企業業績等から先進国株式が上昇したこと。

当ファンドの基準価額に対するマイナス要因

- ・2021年9月以降、中国の不動産開発大手企業の巨額債務問題等から新興国株式が下落したこと。
- ・2022年に入り、FRB(米国連邦準備制度理事会)が大幅な政策金利の引き上げを行い、ECB(欧州中央銀行)も政策金利を引き上げマイナス金利を解除したこと等を受けて、債券価格が下落(利回りは上昇)したこと。

1万口当たりの費用明細

(2021年8月14日～2022年8月15日)

| 項 目 | 当 期 | | 項目の概要 |
|----------------------|------|---------|---|
| | 金 額 | 比 率 | |
| (a) 信託報酬 | 68 | 0.697 | (a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 |
| (投信会社) | (30) | (0.310) | 委託した資金の運用の対価 |
| (販売会社) | (34) | (0.354) | 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 |
| (受託会社) | (3) | (0.033) | 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価 |
| (b) その他費用 | 13 | 0.136 | (b) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数 |
| (監査費用) | (4) | (0.038) | 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 |
| (印 刷) | (9) | (0.098) | 法定開示資料の印刷にかかる費用 |
| 合 計 | 81 | 0.833 | |
| 期中の平均基準価額は、9,691円です。 | | | |

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含まず。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く）が支払った費用を含みません。

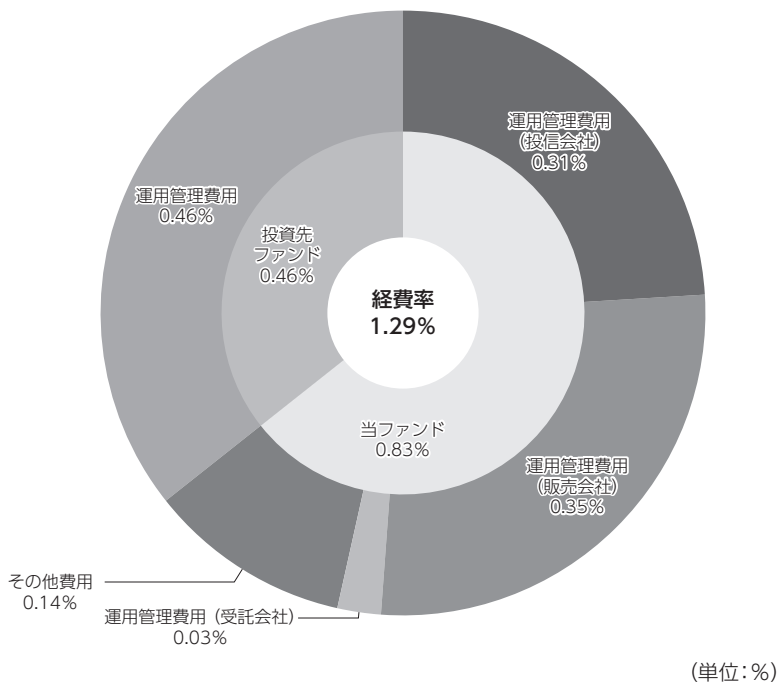
(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○経費率（投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除く。）

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した経費率（年率）は1.29%です。



| | |
|--------------------|------|
| 経費率 (①+②) | 1.29 |
| ①当ファンドの費用の比率 | 0.83 |
| ②投資先ファンドの運用管理費用の比率 | 0.46 |

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

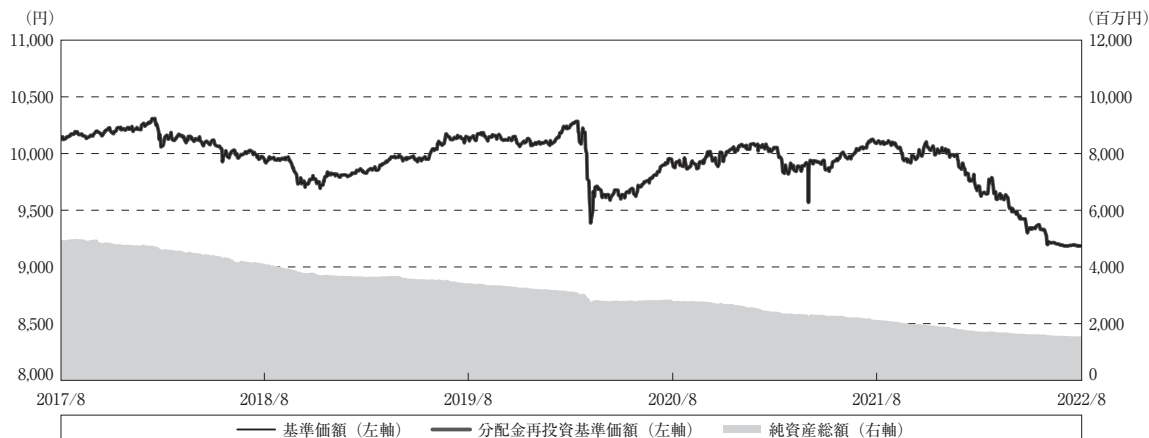
(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 投資先ファンドには運用管理費用以外の費用がある場合がありますが、上記には含まれておりません。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2017年8月14日～2022年8月15日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（課税前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、2017年8月14日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。なお、上記表示期間に収益分配が行われなかった場合、基準価額と分配金再投資基準価額の推移は同一のものとなります。

| | 2017年8月14日 決算日 | 2018年8月13日 決算日 | 2019年8月13日 決算日 | 2020年8月13日 決算日 | 2021年8月13日 決算日 | 2022年8月15日 決算日 |
|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 基準価額 (円) | 10,123 | 9,951 | 10,134 | 9,912 | 10,090 | 9,184 |
| 期間分配金合計(課税前) (円) | - | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 分配金再投資基準価額騰落率 (%) | - | △ 1.7 | 1.8 | △ 2.2 | 1.8 | △ 9.0 |
| 純資産総額 (百万円) | 4,945 | 4,116 | 3,424 | 2,802 | 2,126 | 1,550 |

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) 当ファンドは、特定のベンチマーク（運用成果の目標基準）や参考指数を設けておりません。

投資環境

(2021年8月14日～2022年8月15日)

<世界金融市場>

2021年8～12月の株式市場に関しては、新型コロナウイルスの変異株出現による新規感染者の拡大や、金利や物価上昇の懸念等から軟調に推移する局面があったものの、堅調な企業業績等から先進国株式は上昇しました。一方、中国の不動産開発大手企業の巨額債務問題等から新興国株式は下落しました。債券市場については、新型コロナウイルスの感染拡大により相対的に安全とされる債券が買われる場面があった一方、主要中央銀行による政策金利の引き上げ等の金融引き締めに対する警戒感が高まったため、軟調に推移（利回りは上昇）しました。

2022年1～8月の株式市場に関しては、インフレ圧力の高まりから主要中央銀行が金融政策引き締めに舵を切ったことや、ロシアによるウクライナ侵攻等によって地政学的リスクが上昇したこと等から、軟調に推移しました。債券市場についても、FRBが大幅な政策金利の引き上げを行い、ECBも政策金利を引き上げ、マイナス金利から脱却したこと等を受けて下落（利回りは上昇）しました。

<国内短期金融市場>

国庫短期証券3ヵ月物の利回りは、日銀（日本銀行）による長短金利操作付き量的・質的金融緩和の影響等から、期を通じて0%を下回る水準で推移し、期末時点においては-0.1197%程度の水準となりました。

当ファンドのポートフォリオ

(2021年8月14日～2022年8月15日)

当ファンドは、投資先ファンドであるケイマン籍円建て外国投資信託「クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅲ－新生・ワールドラップ・ファンド・ステーブル・タイプ（適格機関投資家限定）円ヘッジクラス」受益証券（以下「投資先ファンド」といいます）と、「新生 ショートターム・マザーファンド」受益証券を主要投資対象としています。当期は「投資先ファンド」への投資割合を高位に保ち、「新生 ショートターム・マザーファンド」を一部組入れた運用を行いました。

<投資先ファンド>

当期においては、地政学的リスクの上昇、物価や金利の上昇、世界経済見通しの悪化等を受け金融市場が下落したこと等から、現金等の配分比率を約90%まで引き上げました。先進国債券は、期首から約80%の配分比率で推移していたものの、徐々に引き下げ、期末には約10%以下としました。投資適格社債、先進国株式、ハイイールド債券、REIT、コモディティも期中に配分比率を引き下げ、期末時点で投資適格社債とREITの配分比率は0%となりました。一方、期を通じて新興国株式、新興国債券は保有しませんでした。

<新生 ショートターム・マザーファンド>

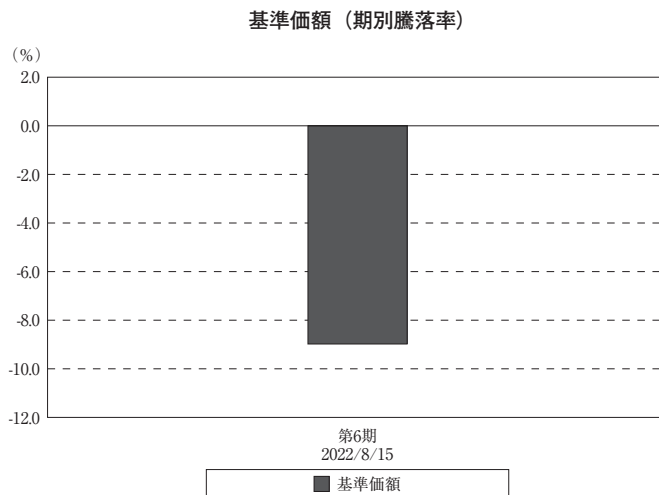
新生 ショートターム・マザーファンドでは、主として国庫短期証券等を組入れましたが、期を通じて、国庫短期証券等の利回りがマイナスで推移する状況が続きました。当期において、基準価額に大きな変動はありませんでした。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2021年8月14日～2022年8月15日)

当ファンドは、特定のベンチマーク（運用成果の目標基準）や参考指数を設けておりません。

右記のグラフは、期中の期別基準価額騰落率です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金（課税前）込みです。

分配金

(2021年8月14日～2022年8月15日)

分配方針に従い、当期は分配した金額はありません。収益分配に充てなかった利益につきましては、信託財産中に留保し運用の基本方針に基づいて運用を行いました。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

| 項 目 | 第6期 |
|-----------|---------------------------|
| | 2021年8月14日～ 2022年8月15日 |
| 当期分配金 | - |
| (対基準価額比率) | - % |
| 当期の収益 | - |
| 当期の収益以外 | - |
| 翌期繰越分配対象額 | 124 |

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

当ファンドは、引き続き、投資先ファンドの組入比率を高位に保つ方針です。

<投資先ファンド>

インフレ、地政学的リスク、経済成長への懸念のほか、金融政策の引き締めなどが不透明感を高め、金融市場に重くのしかかっています。また、企業業績もサプライチェーンの問題や賃金上昇圧力などの影響をますます受けるようになってきています。2022年7月末時点において公表されていた2022年度上半期の企業決算は全体として良好な結果でしたが、2021年の非常に堅調な決算と比較すると力強さに欠けるものとなりました。全体として、ここ数ヶ月間での株価下落により株式のバリュエーションは一段と落ち着いた水準となっており、実際、米国以外のいくつかの市場の株価は割安とみなすことができるほどの水準になっています。さらに、投資家は非常に弱気で投資比率も低位に抑えられており、今後の投資に向けた資金が待機している状況といえます。今後、市場参加者が企業の選別をより積極的に行うようになる中では、アクティブな銘柄選択が引き続き有効であると考えています。

市場参加者は、期待インフレ率を押し下げするために、FRBが利上げサイクルを継続するとの見方を強めていますが、一方、ECBは利上げを始めたばかりです。また、各国の中央銀行はその膨大なバランスシートを縮小し始めています。これら2つの要因は、近い将来、債券市場の重荷になるとみていますが、ECBがユーロ圏債券市場の分断化阻止ツールであるTPI（伝達保護措置）を導入したことで、関係国の国債のスプレッドの安定化が期待されます。全体として、経済成長の減速を背景に、一部の市場では市場参加者がより残存期間の長い債券への投資やデュレーション^{*1}の長期化を検討できるタイミングに来ているのではとみています。一方で、ダウンスайдのリスクを考慮すると、社債と新興国債券については、引き続き慎重かつ選択的なアプローチが適切であると考えています。

※1デュレーションとは、金利変動に対する債券価格の変動割合を理論的に示したもので、一般的に、デュレーションを長期化させると金利変動に対する価格変動が大きくなり、短期化させると金利変動に対する価格変動が小さくなります。

<新生 ショートターム・マザーファンド>

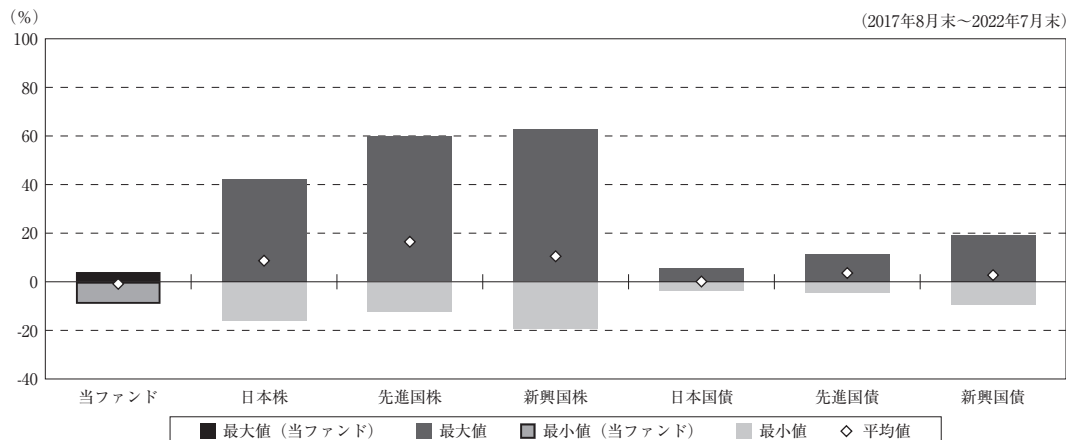
世界的なインフレ圧力の高まりから各中央銀行による利上げが相次いでいますが、日銀は、物価上昇率前年比2%の「物価安定の目標」の実現をめざし、これを安定的に持続するために必要な時点まで金融緩和を継続していくものと想定しており、今後も低水準の金利環境が続くとみえています。マザーファンドでは、引き続き当初の運用方針に基づき、国庫短期証券等に投資する方針です。

当ファンドの概要

| | | |
|-------------|--|-----------------------------------|
| 商 品 分 類 | 追加型投信／内外／資産複合 | |
| 信 託 期 間 | 信託期間は約9年8ヵ月（2016年12月16日～2026年8月13日まで） クローズド期間はありません。 | |
| 運 用 方 針 | 当ファンドは、主に投資信託証券に投資を行い、インカム収益の確保を重視し、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行います。 | |
| 主 要 投 資 対 象 | ケイマン籍円建て外国投資信託「クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅲ－新生・ワールドラップ・ファンド・ステーブル・タイプ（適格機関投資家限定）円ヘッジクラス」受益証券 | 世界の株式・債券・リートおよびコモディティ等へ分散投資を行います。 |
| | 証券投資信託「新生 ショートターム・マザーファンド」受益証券 | 主としてわが国の短期公社債および短期金融商品等に投資します。 |
| 運 用 方 法 | <p>①ケイマン籍円建て外国投資信託「クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅲ－新生・ワールドラップ・ファンド・ステーブル・タイプ（適格機関投資家限定）円ヘッジクラス」（以下、「投資対象ファンド」といいます。）受益証券及び親投資信託である「新生 ショートターム・マザーファンド」受益証券（金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。）を主な投資対象とします。投資先ファンドへの投資を通じて、実質的に世界の株式・債券・リートおよびコモディティ等へ分散投資を行うことにより、信託財産の成長をめざします。</p> <p>②投資先ファンドにおいて、投資先ファンドの純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同額程度の対円における為替ヘッジ取引を行います。</p> <p>③投資先ファンドへの投資は、原則として、高位を維持することを基本とします。</p> <p>④資金動向や市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。</p> | |
| 分 配 方 針 | <p>①分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益および売買益（評価益を含む）等の全額とします。</p> <p>②収益分配金額は、委託者が基準価額水準、市場動向等を勘案して決定します。ただし、市況動向や基準価額水準等によって、分配金額が大きく変動することがあり、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。</p> <p>③収益分配に充てずに信託財産内に留保した利益（無分配期の利益を含みます。）については、運用の基本方針に基づき運用を行います。</p> | |

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

| | 当ファンド | 日本株 | 先進国株 | 新興国株 | 日本国債 | 先進国債 | 新興国債 |
|-----|-------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|
| 最大値 | 4.0 | 42.1 | 59.8 | 62.7 | 5.4 | 11.4 | 19.3 |
| 最小値 | △ 9.1 | △ 16.0 | △ 12.4 | △ 19.4 | △ 3.5 | △ 4.5 | △ 9.4 |
| 平均値 | △ 0.8 | 8.7 | 16.5 | 10.5 | 0.1 | 3.6 | 2.7 |

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2017年8月から2022年7月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドは2017年12月以降の年間騰落率を用いています。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI - KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA - BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)

※各指数についての説明は、P14の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2022年8月15日現在)

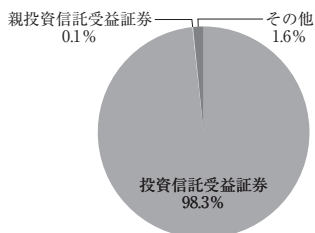
○組入上位ファンド

| 銘柄名 | 第6期末 |
|---|------|
| | % |
| クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト(ケイマン)Ⅱ-新生・ワールドラップ・ファンド・ステープル・タイプ(適格機関投資家限定)円ヘッジクラス | 98.3 |
| 新生 ショートターム・マザーファンド | 0.1 |
| 組入銘柄数 | 2銘柄 |

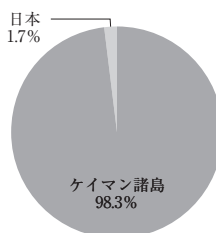
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

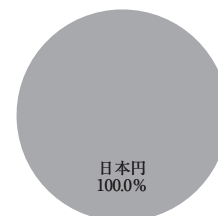
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 四捨五入の関係上合計が100%にならない場合もあります。

純資産等

| 項目 | 第6期末 |
|------------|----------------|
| | 2022年8月15日 |
| 純資産総額 | 1,550,164,517円 |
| 受益権総口数 | 1,687,926,630口 |
| 1万円当たり基準価額 | 9,184円 |

* 期中における追加設定元本額は4,266,186円、同解約元本額は423,486,013円です。

組入上位ファンドの概要

クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅲ-新生・ワールドラップ・ファンド・ステイブル・タイプ（適格機関投資家限定）円ヘッジクラス

【分配金再投資基準価額の推移】

（2021年1月1日～2021年12月31日）



- (注) 投資先ファンドの2021年1月1日から直近決算日（2021年12月31日）までの基準価額の推移を表示しています。
- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（課税前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを表示するものです。分配金再投資基準価額は、基準価額とは異なります。
- (注) 投資先ファンドにより支払われた分配金は、当ファンドが受領しています。

【1万口当たりの費用明細】

（2021年1月1日～2021年12月31日）

当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

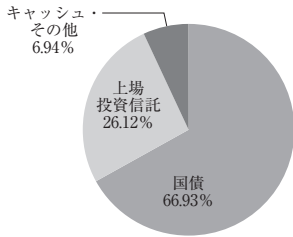
【組入上位10銘柄】

（2021年12月31日現在）

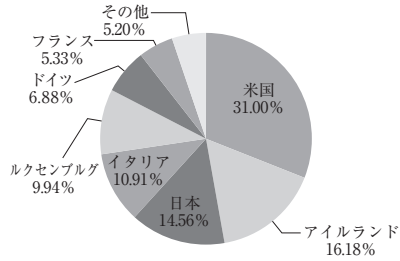
| | 銘柄名 | 国（地域） | 建通貨 | 種別 | 額面金額 | 評価額(日本円) | 比率 % |
|-------|---|---------|-----|--------|---------------|-------------|---------|
| 1 | ISHARES CORE MSCI WORLD UCITS ETF CL USD ACC | アイルランド | 米ドル | 上場投資信託 | 22,309.00 | 229,616,581 | 12.73 |
| 2 | LYXOR EUR 2-10Y INFLATION EXPECTATIONS UCITS ETF /EUR/ CL ACC | ルクセンブルグ | ユーロ | 上場投資信託 | 7,627.00 | 100,787,712 | 5.59 |
| 3 | UNITED STATES TREASURY NOTE | 米国 | 米ドル | 国債 | 868,000.00 | 97,260,451 | 5.39 |
| 4 | UNITED STATES TREASURY NOTE | 米国 | 米ドル | 国債 | 841,000.00 | 96,398,956 | 5.35 |
| 5 | BUONI POLIENNALI DEL TES /EUR/ REGD REG S | イタリア | ユーロ | 国債 | 628,000.00 | 95,460,802 | 5.29 |
| 6 | LYXOR US\$ 10Y INFLATION EXPECTATIONS UCITS ETF C/USD ETF | ルクセンブルグ | 米ドル | 上場投資信託 | 6,533.00 | 86,726,020 | 4.81 |
| 7 | UNITED STATES TREASURY BOND | 米国 | 米ドル | 国債 | 797,000.00 | 78,312,902 | 4.34 |
| 8 | JAPAN (30 YEAR ISSUE) /JPY/ REGD SER 20 | 日本 | 日本円 | 国債 | 50,300,000.00 | 65,496,636 | 3.63 |
| 9 | UNITED STATES TREASURY NOTE | 米国 | 米ドル | 国債 | 585,000.00 | 64,510,528 | 3.58 |
| 10 | BUNDESREPUB. DEUTSCHLAND /EUR/ REGD REG S | ドイツ | ユーロ | 国債 | 457,000.00 | 61,361,759 | 3.40 |
| 組入銘柄数 | | | | 40銘柄 | | | |

- (注) 比率は投資先ファンドが属するシリーズ・トラストの純資産総額に対する割合です。
- (注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。
- (注) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。
- (注) 上記内容は投資先ファンドが属するシリーズ・トラストとしての運用状況を示しております。

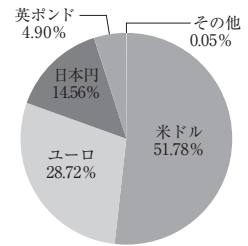
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】

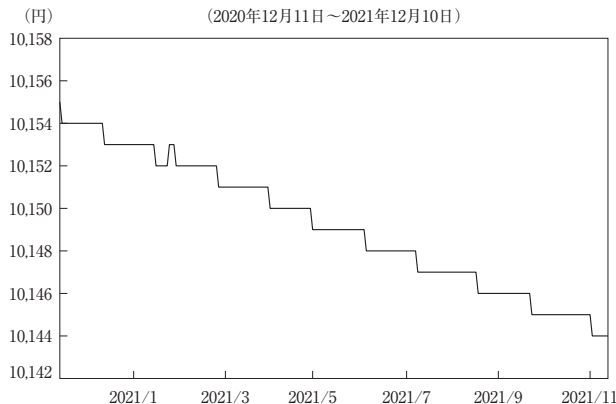


- (注) 比率は投資先ファンドが属するシリーズ・トラストのポートフォリオに対する割合です。
- (注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。
- (注) 上記内容は投資先ファンドが属するシリーズ・トラストとしての運用状況を示しております。
- (注) 四捨五入の関係上合計が100%にならない場合があります。

新生 ショートターム・マザーファンド

【基準価額の推移】

(2020年12月11日～2021年12月10日)



【1万口当たりの費用明細】

(2020年12月11日～2021年12月10日)

該当事項はございません。

【組入上位10銘柄】

(2021年12月10日現在)

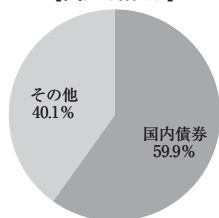
| | 銘柄名 | 業種／種別等 | 通貨 | 国（地域） | 比率 % |
|-------|--------------|--------|-----|-------|---------|
| 1 | 第1041回国庫短期証券 | 国債証券 | 日本円 | 日本 | 59.9 |
| 2 | - | - | - | - | - |
| 3 | - | - | - | - | - |
| 4 | - | - | - | - | - |
| 5 | - | - | - | - | - |
| 6 | - | - | - | - | - |
| 7 | - | - | - | - | - |
| 8 | - | - | - | - | - |
| 9 | - | - | - | - | - |
| 10 | - | - | - | - | - |
| 組入銘柄数 | | | 1銘柄 | | |

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

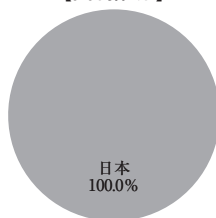
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

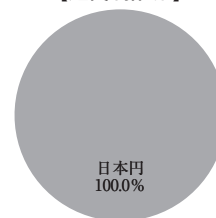
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当マザーファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 四捨五入の関係上合計が100%にならない場合があります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書（全体版）をご参照下さい。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

○東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社に帰属します。

○MSCI - KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI - KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○NOMURA - BPI国債

NOMURA - BPI国債は、野村証券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA - BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村証券株式会社に帰属します。

○FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。